

# 外語会の財政問題改善に向けて

一般社団法人東京外語会  
理事長 上原 尚剛 (S 昭 34)

100年に一度と言われる厳しい経済状況下新しい年を迎えましたが、今年が皆様にとって少しでも良い年になりますよう心から祈念して已みません。

建設中だった大学の異文化交流会館「アゴラグローバル」も目出度く竣工し、今年は大学にとりまして記念すべき年明けになりました。

さて外語会の昨年一年の状況を振り返って見ますと、何と言っても最大の課題は依然として財政問題です。現状外語会の年間経費は会報の発行、母校への支援、事務所賃貸料などの事務局経費等で凡そ2千万円ですが、過去にも度々申し上げて来たように現在外語会の会費は5万円の終身会費になっていますので少なくとも毎年相当数の新たな会員の入会が無いと運営出来ません。そこで昨年一橋や東工大などになって新入生に会員になって貰うべく大学のご協力を得て会費を入学時3万円卒業時に2万円として勧誘結果これまでに約半数の375名に入会して頂きました。一方で例年ですと卒業式に出向いて勧誘し100名近く入会して貰っていたのですが、昨年は卒業式会場の都合で勧誘が思うように出来ず十数名の入会にとどまったので新入生に入会頂いたのは大変な難いことでした。また新入生以外の2年、3年生についても今年から後援会主催の保護者説明会に参加させて頂き外語会の活動について説明の上入会をお願いした結果20名の学生に入会して頂いています。

こうした大学のご支援と外語会関係者のご尽力により昨年は400名近い新会員を迎えることが出来ましたが、これに卒業生からの会費納入を加えた会費収入は2千万円弱に止まり年間の経費を賄うのがやっとと言う状況です。この様な状態では外語会の活動を拡大する事は難しいだけでなく大学に対する支援も現状維持が精一杯です。そこで大学との連携を一層深める為にこの度亀山学長に外語会の特別顧問にご就任頂きましてより多くの学生に会員になって貰いそれに伴って大学への支

援分野を広げる可能性について現在大学と協議を進めているところです。具体的には外語会から毎年何人かの学生に奨学金を出す事や寄付講座として例えば外交官養成講座を設けることなどを検討して貰う一方、大学には本年度も新入生を初めに学生の外語会への加入に対する協力を更に強めて頂く方向で打ち合わせ中です。

政権の座についた民主党が予算の無駄使いを洗うとして設けた目玉の事業仕分け作業の中に国立大学に対する運営交付金の洗い直しが上がって居り現在毎年1%減額されている交付金が更に減額される危険性が強まっています。つまり熾烈な生き残り競争が起こる中で国立大学ではあらゆる面で同窓会との連携を強化する必要性が高まると考えられます。母校東京外語大の場合も例外ではありません。多くの優秀な学生が目指す社会的に評価の高い大学として他大学と伍して行くには上に述べたような対策をベースに一層の関係強化を図って行かねばならないと思っています。その一方で外語会自体も現在は皆無と言って良い会員に対するインセンティブの提供を真剣に検討しなければなりません。現状の財政状態では極めて困難と言わざるを得ません。2007年10月発行の会報111号で中村前理事長が「外語会財政基盤安定化を目的とした会費制度」の中で現在の5万円の終身会費制度は他の国立単科大学の会費に比べ格段に低く大学卒業後の生存期間が50年から60年の長期間になっている現状ではその間の金利の動向や物価の上昇を考慮すれば外語会の財政基盤は極めて不安定で時間の経過と共に悪化する事は明らかとして終身会費制度を年会費制度に改めるべきだと述べておられます。つまりこの財政問題は以前より認識されており、その解決は会の大きな課題として存在している事が分かります。従って現在淡野副理事長を委員長とする会費問題特別委員会に於いて年会費制度への移行をも念頭に入れた新たな会費制度を検討中ですので会員皆様のご理解を賜りたくお願い申し上げます。